

授業科目名 <英訳>	生業生態論 Agricultural Ecology I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
現代アフリカに暮らす人びとを理解するための中心的な対象のひとつは、彼ら・彼女たちが日々を生きていくための生業活動である。講義では、講師がこれまで調査研究をおこなってきたエチオピアでの生業活動（土器製作、農業、土産物製作）を対象に、フィールドワークという手法をもちい、ヒトと「もの」の関係に着目して彼らの生業活動にみいだされる特性を提示する。それをふまえたうえで、受講生とともに、アフリカに暮らす人びとが日々変化する諸環境への対応の仕方、ヒトと「もの」の関係に注目したフィールドワークの可能性、そして調査者が外部者としてフィールドに関わる可能性について議論する。											
【到達目標】											
ヒトと「もの」の関係に注目して、現代アフリカに暮らす人びとによる生業活動へアプローチする手法を理解したうえで、日々変化する諸環境への彼ら・彼女たちの対応の仕方について受講生とともに議論、考察する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
第1回目 インTRODクシヨン： 第2回目 生業活動としてのものづくり1 第3回目 生業活動としてのものづくり2 第4回目 生業活動としてのものづくり3 第5回目 生業活動としてのものづくり4 第6回目 ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性1 第7回目 農耕活動におけるヒト-「もの」関係1 第8回目 農耕活動におけるヒト-「もの」関係2 第9回目 農耕活動におけるヒト-「もの」関係3 第10回目 農耕活動におけるヒト-「もの」関係4 第11回目 ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性2 第12回目 あらたな生業活動とヒト-「もの」関係1 第13回目 あらたな生業活動とヒト-「もの」関係2 第14回目 ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性3（ 第15回目 フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートと授業への積極的な参加を評価します。											
----- 生業生態論 (2)へ続く -----											

生業生態論 (2)

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学習(予習・復習)等]**

必要としない。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	生態経済論 Livelihood and Economy I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
Using multi-disciplinary research data I have collected, this course discusses the entwined relationships between human activities and the environment with special emphasis on the exchange of various natural and social resources among people in contemporary African societies. Each year, I will select a theme pertaining to this subject and develop empirical and theoretical arguments together with the course participants. In the 2017 course, we will reconsider hunter-gatherer childhood with setting "play" as the key concept, based on both the lecturer's field research on several groups of San and the literature review of the relevant studies of the wider hunter-gatherer groups.											
<b>【到達目標】</b>											
In this course, we will develop the above areas of interest by analyzing selected domains of child play based on ethnographic materials.											
<b>【授業計画と内容】</b>											
This course deals with the following topics, each of which lasts two or three weeks. The topics may be modified according to the interests of the class. The lectures are given mostly in English, although I will use Japanese if all of the students are Japanese.											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An overview of early !Kung studies leading from the general characteristics to childhood</li> <li>2. A general to specific treatment of contemporary !Kung and other San groups</li> <li>3. The importance of play in ethnographic studies of childhood</li> <li>4. Soothing and Play: Breastfeeding and Gymnastic Behaviors</li> <li>5. Early Vocal Communication and Social Institution</li> <li>6. Pragmatic Constraints and Semiotic Resources for Imitative Learning</li> <li>7. Socialization in child group via Singing and Dancing Activities</li> <li>8. Play to work transition</li> <li>9. What the San populations have the implications for the anthropology of childhood</li> </ol>											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
Grading is based primarily on reports and class discussions, with weight given to active engagement in class.											
<b>【教科書】</b>											
使用しない Handouts will be provided in class.											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する Reference articles and books will be assigned in class.											
----- 生態経済論 (2)へ続く -----											

生態経済論 (2)

---

**[授業外学習 (予習・復習) 等]**

Students will be required to submit two reports, one at the beginning and one during the middle of the course. Details about these reports will be provided in class.

**(その他 (オフィスアワー等) )**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	生態経済論 Livelihood and Economy II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池野 旬					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
1980年代以降に、グローバル化、構造調整政策、貧困削減政策、複数政党制導入、地方分権化、そして近年の急激な経済成長によって、アフリカ農村は大きく変容しつつある。本講では、アフリカ農村研究の手法等を理解したのち、近年出版されたアフリカ農村の長・短期の社会経済変容を扱った文献を主としてとりあげて、それらの問題関心や分析手法について学んでいく。											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカ農村のような途上国の調査対象地域でフィールドワークを行う場合に、いかなる調査課題を設定し、どのようなデータを収集して分析すべきかについて、基礎的な知識を習得することができる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
第1回：オリエンテーション（授業の進め方、文献紹介）および日本におけるアフリカ研究について 第2回：アフリカ農村での調査手法について 第3-4回：ケニア、タンザニアでの農村調査の成果について 第5回：アフリカ農村の変容に対する分析視角について 第6-14回：受講者それぞれに文献1点（基本的に邦文単行書）の内容要約とコメントを担当してもらい、他の受講者との質疑応答を行い、解説するという形式で授業を進める。対象とする文献については、オリエンテーション時に受講者の希望を聴取する。 学習の理解度、受講者数に応じて、変更される場合がある。											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
第1-5回については授業での質問・意見等の積極的な貢献と出席状況を考慮し、第6-14回についてはそれらに加えて、文献紹介の内容を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
第6回以降に取り上げる文献は、オリエンテーション時に受講者の希望を聴取して、決定する。「アフリカ」「農村」以外を対象とした文献を紹介したいという希望についても、相談に応じる。											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習（予習・復習）等]</b>											
第6回以降の文献紹介予定者が要約（文書）を準備するには必須であるが、他の受講者も当該文献を事前に読了しておくことが望ましい。											
（その他（オフィスアワー等））											
第6回以降については、担当となっていない文献についても、事前に読了しておくことが望ましい。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

<b>授業科目名</b> <英訳>		<b>地域生態論研究演習</b> Research Seminar on Political Ecology I				<b>担当者所属・職名・氏名</b>		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池野 旬 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 佐藤 宏樹			
<b>配当学年</b>	1,2回生	<b>単位数</b>	3	<b>開講年度・開講期</b>	2017・前期	<b>曜時限</b>	水3	<b>授業形態</b>	ゼミナール	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
自然環境の長期的および短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、関連する基礎的な問題群の理解および研究アプローチの方法に関する演習をおこなう。											
<b>【到達目標】</b>											
アフリカにおける生態や生業の特質を理解し、それらを社会・経済・政治環境と組み合わせて研究課題を設定する能力を身につける。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>【履修要件】</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
個別研究報告の内容、ゼミでの質疑応答・討論への参加の積極性など。											
<b>【教科書】</b>											
使用しない											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>【授業外学習(予習・復習)等】</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域生態論研究演習 Research Seminar on Political Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	池野 旬			
						アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	伊谷 樹一			
								アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	高田 明	
								アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	金子 守恵	
								アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	佐藤 宏樹	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索する研究に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築と研究手法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。</p>											
<b>【到達目標】</b>											
<p>アフリカにおける生態や生業の特質を理解し、それらを社会・経済・政治環境と組み合わせて研究課題を設定する能力を身につける。</p>											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。</p>											
<b>【履修要件】</b>											
<p>博士予備論文審査にまだ合格していない者。</p>											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
<p>個別研究報告の内容、ゼミでの質疑応答・討論への参加の積極性など。</p>											
<b>【教科書】</b>											
<p>使用しない</p>											
<b>【参考書等】</b>											
<p>(参考書) 授業中に紹介する</p>											
<b>【授業外学習(予習・復習)等】</b>											
<p>毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。</p>											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
<p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 <英訳>	地域生態論研究演習 Research Seminar on Political Ecology III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池野 旬 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 佐藤 宏樹					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、総合的な問題把握と研究手法についての演習をおこなう。</p> <p>また、博士論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。</p>											
<b>【到達目標】</b>											
アフリカにおける生態や生業を社会・経済・政治環境と組み合わせて研究課題を設定することと、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。</p> <p>第1回目の演習時に、報告順を決定する。</p>											
<b>【履修要件】</b>											
博士予備論文の審査に合格した者。											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
個別研究報告の内容、ゼミでの質疑応答・討論への参加の積極性など。											
<b>【教科書】</b>											
使用しない											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>【授業外学習(予習・復習)等】</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



<b>授業科目名</b> <英訳>		<b>地域生態論研究演習</b> Research Seminar on Political Ecology IV				<b>担当者所属・職名・氏名</b>		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 池野 旬 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 高田 明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 佐藤 宏樹			
<b>配当学年</b>	3-5回生	<b>単位数</b>	3	<b>開講年度・開講期</b>	2017・後期	<b>曜時限</b>	水5	<b>授業形態</b>	ゼミナール	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、先端的な研究動向の把握と研究手法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
<b>【到達目標】</b>											
アフリカにおける生態や生業を社会・経済・政治環境と組み合わせて研究課題を設定することと、その成果を整合的に整理して提示することができる。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>【履修要件】</b>											
博士予備論文の審査に合格した者。											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
個別研究報告の内容、ゼミでの質疑応答・討論への参加の積極性など。											
<b>【教科書】</b>											
使用しない											
<b>【参考書等】</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>【授業外学習(予習・復習)等】</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ政治論 African Politics				担当者所属・ 職名・氏名	龍谷大学法学部 教授 落合 雄彦					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>											
<p>アフリカ大陸には、2014年時点で54の諸国（西サハラを除く）があり、その政治のあり方は実に多様といえる。しかしその一方、そうしたアフリカ諸国、特にサハラ以南アフリカ諸国の植民地期と独立後の政治には、「アフリカ政治」と総称しうるようなある程度の類似性もまたみられる。本科目の目的は、サハラ以南アフリカ諸国の多様性に留意しつつも、それらをひとつの圏域として捉え、そこで展開されてきた政治的事象の類似性を「手がかり」にしながら、アフリカ政治への基礎的な理解を深めるとともに、それを分析するための基本概念・枠組みを習得することにある。</p>											
<b>【到達目標】</b>											
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。											
<b>【授業計画と内容】</b>											
<p>授業は、学生による報告とその後の討論を中心に進めるが、教員によるミニ講義も適宜実施する。学生の報告については、受講者の人数などにもよるが、1回の授業で2名程度に報告をしてもらう予定であるため、各学生は授業期間中に最低でも2～3回程度の報告をすることになるだろう。学生が報告することを課される文献は基本的に英文であり、テーマによっては日本語の文献もあわせて報告してもらう。</p> <p>具体的には、アフリカ政治に関する以下のようなテーマについて、1課題あたり1～2回程度の授業を行う予定である。</p>											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 植民地化、植民地支配、植民地遺制</li> <li>2. イデオロギー</li> <li>3. エスニシティ</li> <li>4. 階級</li> <li>5. 個人支配</li> <li>6. 軍部</li> <li>7. 主権</li> <li>8. 構造調整</li> <li>9. 民主化</li> <li>10. 紛争、安全保障</li> </ol>											
<b>【履修要件】</b>											
特になし											
<b>【成績評価の方法・観点及び達成度】</b>											
口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。											
----- アフリカ政治論(2)へ続く -----											

## アフリカ政治論(2)

### [教科書]

### [参考書等]

(参考書)

Thomson, Alex 『An Introduction to African Politics』 (Routledge) ISBN:9780415482875 ( [3rd edition, 2010] )

Hyden, Goran 『African Politics in Comparative Perspective』 (Cambridge University Press) ISBN: 9781107651418 ( [2nd, 2013] )

Englebert, Pierre and Kevin Dunn 『Inside African Politics』 (Lynne Rienner) ISBN:9781588269058 ( [2013] )

### [授業外学習 (予習・復習) 等]

事前に指示された英文テキストを授業前に各自読んでくること。

### (その他 (オフィスアワー等) )

京大キャンパスには授業実施日の午後しかいませんので、何か質問などがあれば遠慮なくメールで連絡をください。 ochiai@law.ryukoku.ac.jp

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	民族文化論 Culture and Ethnicity I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>アフリカにおける民族問題がどのように、文化、政治、経済、そのほかの社会の諸側面と関係しているのかについて、近代以降の歴史、植民地支配、独立以降の国家建設と経済開発、政治体制の移行、武力紛争などの過程を具体的にたどりながら、理解する。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>アフリカの民族問題を社会的視野の中に位置づけて捉えるために必要な基本的知識と観点を習得する。</p>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>以下のような課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．民族とは何か</li> <li>2．民族、言語、文化</li> <li>3．アフリカの民族、生業、および自然条件</li> <li>4．近代史における国家、国民、民族</li> <li>5．植民地支配と民族</li> <li>6．「国家建設」と民族</li> <li>7．経済開発と民族</li> <li>8．民族と紛争</li> <li>9．民主主義、「部族主義」、および民族</li> <li>10．民族・文化の多様性と社会</li> </ol>											
<b>[履修要件]</b>											
<p>特別な予備知識は必要としない。</p>											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
<p>レポート試験の成績（50％）授業における報告および議論についての評価（50％）</p>											
<b>[教科書]</b>											
<p>授業中に指示する 必読文献（学術論文を含む）を授業開始時、および前もって指示する。</p>											
<b>[参考書等]</b>											
<p>（参考書）          松田素二『抵抗する都市 ナイロビ移民の世界から』（岩波書店）（1999）          高橋基樹『開発と国家 アフリカ政治経済論序説』（勁草書房）（2010）          梶 茂樹，砂野幸稔共編著『アフリカのことばと社会 - 多言語状況を生きてということ』（三元社）（2009）          ジョセフ・ロスチャイルド『エスノポリティクス』（三省堂）（1989）          川田順造、福井勝義共編『民族とは何か』（岩波書店）（1988）</p>											
----- 民族文化論 (2)へ続く -----											

## 民族文化論 (2)

---

### [授業外学習（予習・復習）等]

日頃から最先端の研究に触れることが重要なので、できる限り自分が関心を持つアフリカおよび民族に関する学術書・学術論文（日本語、外国語を問わない）を多く読むようにすること。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーは特に定めないが、講義時間外に直接話をしたい学生は前もってメールで連絡すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	民族文化論 Culture and Ethnicity II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山越 言					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
多様な自然環境のもと、さまざまな生業を営む人々が生きるアフリカ社会が、西欧由来の近代概念を内面化あるいは換骨奪胎する際に生じる現代的諸問題の代表例として、自然保護に注目する。関連する基礎的な概念について、読解・討論を通じて理解する。											
[到達目標]											
授業で取り上げるキーワードについて基礎知識を身につけ、それを用いて討論し、各自のフィールドワークの現場で生かすことができる新たな問題意識を獲得する。											
[授業計画と内容]											
第1回目の授業時に日程・内容に関して受講者と相談ののちに決定する。下記は暫定的なモデル案。											
第1週 授業方針についての説明。											
第2-7週 自然保護の多様なアプローチを具体例を用いて紹介する。											
主要な論点：「誰が」「どのような自然を」「どのような手段で」「何のために」護るのか、「保全と保存」論争、実用的価値と超越的価値、人為的介入の是非											
第8-10週 自然保護に関して行った議論を、地域研究における隣接分野に応用し、理解を深める。											
主要な論点：「ほっとけない」運動、参加型開発論、人道的介入											
第11-15週参加者の関心に応じてキーワードを選び、特定の問題群について議論を行う。											
キーワード例：生物多様性、環境持続性、外来種問題、レジリアンス、エコロジー思想、「木は法廷に立てるか」論争、「動物の権利」論争、公民権運動と自然保護思想、動物愛護と共感、アルピニズム・探検の思想、「景観」「風景」概念、風景画の誕生と変遷、ネイチャーライティングと交感、保護区と植民地主義、宗教と環境保全											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
質問、意見等による講義への主体的参加、討論における積極性を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書)											
授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
日常的な学習・研究活動を行っていれば、そのほかに特別な予復習等は必要ない。討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。											
(その他(オフィスアワー等))											
講義時に必要に応じ指示する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域文化論 Socio-Cultural Integration I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
フィールドへの入り方，テーマのを見つけ方，データの集め方，論文の書き方等について，アフリカ熱帯雨林での農耕民，狩猟採集民の調査経験にもとづいて話す。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに基づいた研究の進め方について理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
木村自身の研究経歴の紹介(1回) 中央アフリカ熱帯林の生態と社会の解説(3回) コンゴ民主共和国の農耕民ボンガンドの研究について(2回) カメルーンの狩猟採集民バカの研究について(2回) 人々の日常的相互行為の調査について(2回) 調査方法，論文の書き方(1回)											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
講義中の質疑応答およびレポートに基づいて評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に適宜参考資料を配布する。											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 木村大治 『共在感覚 - アフリカの二つの社会における言語的相互行為から』(京都大学学術出版会) ISBN:978-4876986224 木村大治，北西功一(編) 『森棲みの生態誌 アフリカ熱帯林の人・自然・歴史Ⅰ』(京都大学学術出版会) ISBN:978-4876989522 木村大治，北西功一(編) 『森棲みの社会誌 アフリカ熱帯林の人・自然・歴史Ⅱ』(京都大学学術出版会) ISBN:978-4876989539 これらの参考書は必ずしも購入する必要はないが，希望者には割引で販売する。											
(関連URL)											
<a href="http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/~kimura/">http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/~kimura/</a> (木村ホームページにこれまでに書いた論文のリストがある。興味をもち読みたい論文があればコピーを渡すので申し出ること。)											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
授業中に出した課題は，次の回までにやってくること。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については，KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>		民族共生論研究演習 Research Seminar on Cultural Ecology I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山越 言 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 大山 修一			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
民族文化の特性を把握し、現代の複合社会における在り方について検討するため、関連する基礎的な問題群の理解および研究アプローチの方法に関する演習をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカにおける民族文化の特性を理解し、現代社会における民族に起因するさまざまな問題の解決をめざす研究をおこなう能力を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の参照などを通しさらに理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



授業科目名 <英訳>		民族共生論研究演習 Research Seminar on Cultural Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山越 言 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 大山 修一			
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
民族文化の特性や、現代の複合社会における在り方に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築と研究手法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカにおける民族文化の特性を理解し、現代社会における民族に起因するさまざまな問題の解決をめざす研究をおこなう能力を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の参照などを通しさらに理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>		民族共生論研究演習 Research Seminar on Cultural Ecology III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 木村 大治 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山越 言 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 大山 修一			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
民族文化の特性や、現代の複合社会における在り方に関する総合的な問題把握と研究手法についての演習をおこなう。また、博士論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカにおける民族文化の歴史的変遷と現在の状況を理解し、異なる他者を認めつつ共生していく方法を見出す能力を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文の審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の参照などを通しさらに理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	民族共生論研究演習 Research Seminar on Cultural Ecology IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科 アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 教授 准教授 准教授	高橋 基樹 木村 大治 山越 言 大山 修一			
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
民族文化の特性や、現代の複合社会における在り方に関する先端的な研究動向の把握と研究手法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカにおける民族文化の歴史的変遷と現在の状況を理解し、異なる他者を認めつつ共生していく方法を見出す能力を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文の審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の参照などを通しさらに理解を深める。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	社会動態論 Social and Cultural Dynamics I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 太田 至
---------------	---	-----------------	-------------------------

配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

**【授業の概要・目的】**

現在のアフリカ社会が直面する最大の困難は、紛争による社会秩序の解体と疲弊である。アフリカに限らず現代の紛争には、民族や宗教、人種などを争点とするアイデンティティ・ポリティックスに起因するものが多く、多数の一般大衆が紛争に巻きこまれて激しく対立し、隣人同士が深刻な憎悪の対象となることもある。そして、多くの難民や国内避難民が発生している。このような事態を、地域研究はどのように理解しうるのか、そして、それへの対処の道を探究するために、どのような貢献ができるのだろうか。

本講義では、とくに1990年代以降にアフリカで発生した紛争問題を取りあげて、その原因や紛争の経過、解決のためにとられた方法を紹介する。そして、平和構築と社会関係の修復、民族の共存のために西欧近代の制度や価値観（たとえば民主主義や人権思想）を導入するのではなく、アフリカ人がみずから創造・蓄積し、運用してきた知識や制度を活用する道があるのかを考える。

**【到達目標】**

- 1．現代世界の紛争、とくにアフリカにおける紛争の特徴（何を原因としておこり、どのようなやり方で戦われるのか）を理解する。
- 2．紛争の予防や紛争後の和解、復興を実現するために、どのような方法がとられているのかを理解する。
- 3．紛争の解決方法には、多様なやり方があることを理解する。
- 4．上記の具体例として、ルワンダのジェノサイドや南アフリカのアパルトヘイト、ケニアにおける選挙後の暴動などによって引き起こされた社会的な亀裂を修復するために、どのような努力がされたのかを理解する。
- 5．民主主義や人権思想といった一見したところ普遍的な制度や価値観ではなく、紛争解決や共存の実現のために、ローカルに創造、運用されてきた知識や制度が存在することを理解する。

**【授業計画と内容】**

授業は基本的には講義形式ですすめる。

第1週：オリエンテーション：授業の進め方の説明など

第2-3週：1990年代以降のアフリカにおける紛争の概要

第4-6週：ルワンダ紛争：民族対立とその後の和解

第7-8週：南アフリカ共和国におけるアパルトヘイト後の真実究明と「人種」間の和解

第9-11週：ケニア共和国における民族対立の歴史的・政治的背景と2007-8年の暴力的衝突

第12-14週：難民キャンプにおける難民と地元民との対立と共存

第15週：アフリカにおける民族共存をめざして

**【履修要件】**

特になし

## 社会動態論 (2)

### [成績評価の方法・観点及び達成度]

試験時にはレポートを提出してもらおう。その課題は授業中に指定する。また、授業での質疑応答への積極的な参加や出席状況も考慮に入れる。

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学習(予習・復習)等]

予習すべきことはとくにない。復習としては、紛争の解決にかかわる問題、あるいは授業中に議論する人びとの共生の実現にかかわる問題を、どこか遠くの地域で起こっている現象としてではなく、自分の調査地域にも存在する問題、あるいは、日本にもおなじように起こっている問題として考える時間をとり、そこで考えたことを、つぎの講義時間のなかで話してほしい。

### (その他(オフィスアワー等))

以下は、わたしが代表者となって2011～2015年度に実施した研究プロジェクトです。アフリカの紛争と共生という課題にアプローチするための視点を読んでみてください。

<http://www.africapotential.africa.kyoto-u.ac.jp/>

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会動態論 Social and Cultural Dynamics II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野（野元） 美佐					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>サハラ以南アフリカの諸都市は、外からのさまざまな影響を受けてきた。植民都市はもちろん、古くから栄えてきた都市も、長距離交易、奴隷貿易、植民地化などの社会変動を受けつつ、その社会を形成、維持してきた。本講義では、このようなローカルとグローバルがせめぎ合うアフリカ都市社会の動態を、多角的に理解することを目指す。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
<p>アフリカのさまざまな都市の過去から現在への発展や、アフリカ都市居住者の社会や生活について学ぶことで、アフリカ社会のもつダイナミズムやグローバル性を理解し、自己の研究対象地域への理解も同時に深めることができる。</p>											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>毎回、1人～2人の受講者に、文献の内容をレジュメにまとめて発表してもらい、全員で議論するという形式で授業を進める。ただし、受講者の数やその関心によって、授業の進め方や内容を変更する可能性がある。</p> <p>第1回：ガイダンス（文献の紹介、授業の概要説明）  第2回～4回：アフリカ都市とは  第5回～7回：日本のアフリカ都市研究  第8回～9回：スワヒリ都市社会  第10回～11回：南部アフリカの都市社会  第12回～14回：西アフリカの都市社会  第15回：まとめ（都市をフィールドにすること）</p>											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
発表内容、出席など総合的に評価する											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習（予習・復習）等]</b>											
受講生は、配布された文献等についてあらかじめ読んだり調べたりする必要がある。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワー以外でもかまいませんが、できればメールで事前に連絡をください。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	生態史論 Socio-Ecological History I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	その他	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>アフリカ農村の生業と生活における諸問題およびその歴史的過程を、ヒト - 植物関係論 [農業科学、人類学、生態学、栽培植物起源学、民族植物学 (エスノボタニー)、ドメスティケーション論 など] の立場から考察します。講義では、アフリカの人々が培ってきた文化的資源としての在来知と、それを操る人びとの集まり (新たなコミュニティ) の分析を通じて地域社会における発展の問題について考えます。農村、教育、博物館、生物多様性、ものづくり、定期市、睡眠文化などをキーワードにして上記の問題にアプローチします。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
アフリカ地域研究の分野で、農村における生業と生活に関する研究の基本的な理解力をみにつける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>以下の項目について講義をおこないます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. なぜアフリカと関わるのか：</li> <li>2. アフリカ在来知とポジティブな実践：研究と実践の架橋</li> <li>3. アフリカ農業と生態学的決定論：栽培植物の起源と利用</li> <li>4. ヒト - 植物関係論の実相：ドメスティケーションの過程をめぐって</li> <li>5. アフリカにおける社会的睡眠の文化論的考察</li> <li>6. 実践的地域研究とは：</li> <li>7. 地域研究における生態・社会・文化の史的考察：</li> </ol>											
<b>[履修要件]</b>											
特別な予備知識は必要ありません。知的好奇心を全開にして積極的に参加する諸君を歓迎します。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
レポートおよび出席状況によって評価します。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習 (予習・復習) 等]</b>											
事前に配布した資料を精読して参加すること。											
(その他 (オフィスアワー等))											
<p>オフィスアワーは特に定めませんが、e-mail: shigeta@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp 宛に事前に希望時間を知らせてください。適宜対応します。</p> <p>オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。</p>											

授業科目名 <英訳>	生態史論 Socio-Ecological History II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
フィールドワークにもとづく地域研究のプロセスにおける文献レビューの位置づけについて議論したうえで、人間社会と生態系との関係（史）にかかわるトピックをとりあげて、文献レビューの書き方を学ぶ。本授業は1・2年次配当となっているが、3年次以降の学生の履修も推奨する。											
<b>[到達目標]</b>											
(1) フィールドワークにもとづく地域研究のプロセスにおける文献レビューの位置づけについて、見識をもつ。 (2) 論文の読み方および文献レビューの書き方を理解する。 (3) 必要におうじて、人間と生態系の関係（史）という視点を自分の研究に取り入れるアイデアを得る。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
(1) 論文とは何か？ (2) フィールドワークとは何か？ 研究計画とは何か？ (3) 文献レビューとは何か？ (4) 文献レビューの書き方 トピックを選ぶ (5) 文献レビューの書き方 アーギュメントを構築する (6) 文献レビューの書き方 文献を探す (7) 文献レビューの書き方 文献を調査する (8) 文献レビューの書き方 文献を批判する (9) 文献レビューの書き方 レビューを書く (10) - (14) 文献レビューの執筆											
<b>[履修要件]</b>											
特になし											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
文献レビュー（100点）											
<b>[教科書]</b>											
プリントを配布する。											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） LA Machi & BT McEvoy 『The Literature Review』（Corwin）ISBN:9781506336244 H Kopnina (ed.) 『Environmental Anthropology (Critical Concepts in Anthropology)』（Routledge）ISBN:9780415708678											
<b>[授業外学習（予習・復習）等]</b>											
(1) 文献を読む (2) レビューを書く											
<b>(その他（オフィスアワー等）)</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



<b>授業科目名</b> <英訳>		<b>地域動態論研究演習</b> Research Seminar on Historical Ecology I				<b>担当者所属・職名・氏名</b>		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 太田 至 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野(野元) 美佐 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和			
<b>配当学年</b>	1,2回生	<b>単位数</b>	3	<b>開講年度・開講期</b>	2017・前期	<b>曜時限</b>	水3	<b>授業形態</b>	ゼミナール	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
自然環境の長期的および短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、関連する基礎的な問題群の理解および研究アプローチの方法に関する演習をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
自然環境と社会環境の相互作用を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
議論されたことを自分の研究に活かせるように検討する。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

<b>授業科目名</b> <英訳>		<b>地域動態論研究演習</b> Research Seminar on Historical Ecology II				<b>担当者所属・職名・氏名</b>		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 太田 至 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野(野元) 美佐 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和			
<b>配当学年</b>	1,2回生	<b>単位数</b>	3	<b>開講年度・開講期</b>	2017・後期	<b>曜時限</b>	水3	<b>授業形態</b>	ゼミナール	<b>使用言語</b>	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索する研究に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築と研究手法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
自然環境と社会環境の相互作用を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
議論されたことを自分の研究に活かせるように検討する。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域動態論研究演習 Research Seminar on Historical Ecology III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 太田 至 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野(野元) 美佐 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、総合的な問題把握と研究手法についての演習をおこなう。また、博士論文のための研究に関する、分野横断的な立場からの評価や指導をおこなう。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
自然環境と社会環境の相互作用を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。</p>											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
議論されたことを自分の研究に活かせるように検討する。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域動態論研究演習 Research Seminar on Historical Ecology IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 太田 至 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 重田 眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 平野(野元) 美佐 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
<p>自然環境の長期的及び短期的な動態と、村落・民族社会・国家等の社会環境の相互作用過程を解析し、地域における自然と人間の共生の道を模索するため、先端的な研究動向の把握と研究手法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。</p>											
<b>[到達目標]</b>											
自然環境と社会環境の相互作用を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
<p>受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。 第1回目の演習時に、報告順を決定する。</p>											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
個別研究報告の内容、ゼミへの出欠、討論への参加の積極性など。											
<b>[教科書]</b>											
使用しない											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
議論されたことを自分の研究に活かせるように検討する。											
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
<b>[到達目標]</b>											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
<b>[到達目標]</b>											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
<b>[到達目標]</b>											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文審査に合格した者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
1年次に臨地教育を受けた者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											



授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに関する基本的事項についての理解を深める。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
(参考書) 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習(予習・復習)等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
<b>[履修要件]</b>											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。											
<b>[成績評価の方法・観点及び達成度]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学習（予習・復習）等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	熱帯病学 Tropical Diseases				担当者所属・ 職名・氏名	関西医科大学 教授 西山 利正					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。											
【到達目標】											
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：熱帯病学総論 第2回：カ媒介性疾患1（マラリア） 第3回：カ媒介性疾患2（ Dengue熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など） 第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など） 第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など） 第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋系状虫症、ロア系状虫症、人食いバエなど） 第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など） 第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など） 第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など） 第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など） 第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症） 第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パスツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など） 第13回：マラリア・ Dengue熱簡易診断キットの使い方（実習を含む） 第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方 第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方											
【履修要件】											
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。											
【教科書】											
使用しない											
----- 熱帯病学(2)へ続く -----											

## 熱帯病学(2)

---

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

[http://www.who.int/ith/en/\(WHO International Travel and Health\)](http://www.who.int/ith/en/(WHO International Travel and Health)  
[http://wwwnc.cdc.gov/travel/\(CDC Travel Health\)](http://wwwnc.cdc.gov/travel/(CDC Travel Health)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02\\_tokou\\_yobou.html](http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html)(厚労省検疫所ホームページ)  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)  
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラベルクリニックリストホームページ)

### [授業外学習(予習・復習)等]

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー 金曜日12時~13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	実践的開発協力論 Practical Development Cooperation				担当者所属・ 職名・氏名	(株)かいはつマネジメントコンサルティング 白鳥 清志 シニアコンサルタント					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカの農業・農村開発分野における技術協力の事例から、開発援助事業が本来目指していることと現場で起こっている様々な事象を題材にした講義。開発援助事業の概要を解説した後、開発とは何か、受益者・現地行政官・開発ワーカーなど関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え方、行動、役割、求められる能力などを議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>開発援助事業の課題と可能性についての理解を深め、開発ワーカーとして必要な知識、技能、態度、考え方をより深く考察できるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>以下の課題について次のテーマをカバーします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開発援助の仕組み(案件形成、事業管理、事業評価、PCM、必要な人材)</li> <li>2. 参加型開発(参加とは何か、参加型アプローチとツール)</li> <li>3. 開発事業の事例(タンザニア、エチオピア、モザンビークほか)</li> <li>4. 開発における組織と人(組織と人、計画と現実、援助を飼いならす)</li> <li>5. 開発への関わり方(開発援助とは、主役は誰か)</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業への出席と、議論への参加で判断します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
<p>(参考書)</p> <p>Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石出版) ISBN:978-4750313078 (開発に関わる我々が変わることを議論)</p> <p>JIRCAS 『ファームング・システム研究:理論と実践』(JIRCAS)(日本におけるファームングシステムの詳細な解説と議論)</p> <p>開発教育協会 『開発教育 Vol.54:参加型開発と参加型学習』(明石書店) ISBN:9784750326061</p> <p>Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)</p> <p>服部正也 『援助するものされるもの』(中央公論新社) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度と考え方)</p> <p>Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治</p>											
実践的開発協力論(2)へ続く											

## 実践的開発協力論(2)

出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)

動く 動かす 『ミレニアム開発目標 世界から貧しさをなくす8つの方法』 (合同出版) ISBN:978-4772610919 (開発ゴールとしてのMDGsとポストMDGs)

大熊孝 『技術にも自治がある』 (農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤寛 『参加型開発の再検討』 (Development Institute) ISBN:978-4258091997 (外部者が開発にどうかかわるかを議論 <http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Keikyo/199.html>)

Gonsalves, J. et al 『Participatory Research and Development for Sustainable Agriculture and Natural Resource Management』 (International Development Research Centre) ISBN:978-1844075638 (参加型開発に関する理論と実践のための豊富な事例集)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』 (みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論：越境する援助のデザイン』 (ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

Alem, D. et.al. 『Farmer Research groups: Institutionalizing Participatory Agricultural Research in Ethiopia』 (Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (エチオピアでの参加型農業研究の経験のまとめ。技術協力の一例。)

関根久雄(編著) 『実践と感情：開発人類学の新展開』 (春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて。)

### (関連URL)

[https://sites.google.com/site/ethiorice/\(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center\)](https://sites.google.com/site/ethiorice/(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia Farmer Research group Project II))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia Farmer Research group Project))

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech\\_ga/after/pdf/2004/hyouka\\_nougyo2\\_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project))

### [授業外学習(予習・復習)等]

下記および他の開発援助事業資料を見て、質問等をリストアップしておく。

- エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト

<https://sites.google.com/site/ethiorice/>

- エチオピア農民研究グループを通じた適正技術開発普及プロジェクト

<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>

- タンザニア農業技術者訓練センタープロジェクト

<http://goo.gl/kpqxcE>

・外務省プロサバナ

<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>

・JVCプロサバナ事業に関する取組み

<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

### (その他(オフィスアワー等))

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

実践的開発協力論(3)へ続く

### 実践的開発協力論(3)

---

どんなことでも問い合わせてください。  
kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。